巻 頭 言

岡山大学におけるスーパーグローバル大学創成支援プロジェクトの紹介

Top global university project in Okayama University

岡山大学大学院環境生命科学研究科
難 波 徳 郎

Tokuro Nanba
Graduate School of Environmental and Life Science, Okayama University

この原稿は大学入試センター試験が実施された翌週に書いている。今，大学教育の話題は現行のセンター試験に代わって実施される新テスト「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」に移っているように思う。学校教育法では，学力の重要な 3 つの要素（いわゆる「学力の 3 要素」）として，(1)十分な知識・技能，(2)それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力，(3)これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度をあげている。大学入試では，学力の３要素を多面的，総合的に評価する選抜方法に改善するよう求められた。要素１：知識・技能，要素２：思考力・判断力・表現力については，新テストで評価することができるが，新テストで評価できない要素３：主体性・多様性・協働性については，各大学が個別に実施する試験で評価することになる。さらに，英語では四技能（読む・書く・聞く・話す）の評価を求められるなど，入試の現場では大騒ぎとなっている。

現在ホットな入試改革から比べると，今回紹介するグローバル化やグローバル人材育成がホットな話題だったのはかなり昔のようにも思われる。平成 19 年度には「グローバル COE プログラム」が，平成 21 年度には「国際化拠点整備事業（グローバル 30）」が実施された。岡山大学はこれらの支援事業には採択されなかったが，平成 25 年には副専攻コースとして「グローバル人材育成特別コース」[1]を設置し，学生が岡山から世界へ飛び立ち活躍するための支援を行っている。グローバル 30 は，事業仕分けによる予算削減や再仕分けでは廃止判定を受けたこともあった。これに対して，産業界はグローバル 30 の支持を表明するとともに，経団連は奨学金制度を設け，会員企業は奨学生を積極的に採用するなどの対応を示しており，グローバル人材育成に対する産業界の期待の高さがうかがえる。

岡山大学は他大学に後れを取ったものの，ようやく平成 26 年度に文部科学省スーパー

グローバル大学（SGU）等事業「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された。名称は「PRIME（Practical Interactive mode for Education）プログラム：世界で活躍できる実践人を育成する！」[2]というもので，学生は 3 つの基幹力（教養力，語学力，専門力）を知識として持つだけではなく，３つの側面（異社会，異分野，異文化）の経験をグローバルな現場で試すことにより，実践の場で適切な判断をくだすことができる能力（グローバル実践知）を身に付けた人材の育成を目指している。構想調書では具体的な取り組みとして，グローバルマッチングプログラムコースの設置が記されていた。これは，平成 18 年に設置されたマッチングプログラム（MP）コース[3]を拡充し，英語による学位取得コースを新たに設けるというものである。

MP コースは，先進科学分野，国際連携分野，そして地域のリーダーとして活躍する人材を養成すべく，岡山大学が全国の大学に先がけて始めた教育プログラムである。副専攻コースではなく独立した教育課程で，学部や学科の枠にとらわれず，学生の将来の目標や目的に対するマッチングを図るために，自分自身に合った学部・学科横断型の履修プログラムを教員と相談しながら作成し，卒業研究も目的に合った学部・学科を選び，学部教員の指導の下で行うことができる。広い視野にたった専門性，コミュニケーション能力，チャレンジ精神，独立心，独創性などが高く評価されてきた。グローバル MP コースは，現行の MP コースを留学生にも拡大し，英語と日本語による教育を行う課程として計画された。

現在はグローバル・ディスカバリー・プログラム（以下，ディスカバリー）へと名称を変更して準備を進めている[4]。スタートは今年（平成 29 年）10 月で，既に入試は始まっている。主に留学生を対象とした国際入試により 30 名が 10 月に入学し，主に日本人を対象とした国内入試（AO 入試）によりさらに 30 名が翌年 4 月に入学する。現行の MP コースの入学定員は 16 名なので，約 4 倍の規模になる。MP コース専任の教員はいなかったが，ディスカバリーでは 14 名の専任教員が配置される。学生の入学定員と同様に，各学部の教員ポストを削ってディスカバリーに再配置された[5]。この間にも，さまざまな紆余曲折があったことは想像いただけると思う。私はディスカバリーの専任教員ではないが，学部の事情によりディスカバリーのカリキュラム構築に係わることになった。

ディスカバリーでは，現行の MP コースと同様に既存学部において卒業研究を行うマッチングトラックに加え，英語により行われる授業を中心に履修し，ディスカバリー専任教員の指導の下で卒業研究を行うディスカバリー専修トラックが新たに設けられる。ディスカバリー専修トラックでは専任教員の他に，既存学部の教員が担当する授業が開講される。ディスカバリー専修トラックは当初，文系２コース（文学系，経済系），理系２コース（理数系，環境系）の構成が構想されていた。最終的に理系コースについては，環境生命系を中心とする１コースに集約されるとともに，教員はすべて学内（環境理工学部，理学部，農学部）からの移動により配置されることとなった。学生は理系コースの授業の他

に文系コースの授業も履修する，文理融合型のカリキュラム設計にした。これにより，学生は次のような力を修得する。冒頭で触れた学力の３要素のうち，要素２と要素３に関して高い学力を持つ人材を育成できる。

・既存の枠組みにとらわれず，自ら課題を発見する力
・課題の解決に必要な専門知識，調査手法
・情報収集力，多角的・創造的な分析力，的確かつ効果的な情報発信力
・多文化環境に適応できる感性と語学力

カリキュラム設計で難しいのは，10 月と４月で入学時期がずれている，語学力がバラバラ，特に留学生は入学当初に日本語を集中的に学習させる必要がある，マッチングトラックに進む予定の学生には早い段階で学部の専門教育科目を履修させる必要がある，などなど，あげていけばきりがない。時間割を組み立てるのは，ジグソーパズルの細かなピースはめ込んでいく作業に似ていた。岡山大学では 90 分授業，前後期制だったものが，平成 28 年度からは 60 分授業（実質は 120 分で１科目），４学期制[6]に移行したため，授業のない空き時間も大幅に減ってしまった。積み上げ式のカリキュラムにしにくいので，複数の授業をセットで提供するモジュール型の履修方法を取り入れるなどの工夫もした。現時点ではカリキュラムの詳細は公開されていないが，興味がある方は公開された際には我々の苦労の成果を是非ご覧いただきたい。

今後は学年進行に合わせて，国内外のインターンシップを増やしていかなければならない。海外社員向けの研修プログラムをお持ちの企業は是非お力添えをいただきたい。また，３年後には１期生が就職活動を開始している。技術者を目指すならば大学院への進学が必要かもしれないが，他にも海外の事業所や企業，自治体などとの交渉役としての活躍が期待される。岡山大学のディスカバリーを記憶にとどめていただければ幸いである。

参考

１）http : //global. okayama-u. ac. jp/
２）http : //www. jsps. go. jp/j-sgu/data/torikumigaiyou/h26/sgu_h26 initiatives_b09. pdf
３）http : //www. mpc. okayama-u. ac. jp/course/
４）http : //discovery. okayama-u. ac. jp/jp/
５）http : //www. okayama-u. ac. jp/up_load_files/soumu-pdf/hyoka_gjisseki(27). pdf
６）http : //www. okayama-u. ac. jp/tp/news/news_id5702. html